

男女共同参画社会について考える

—川柳の作成やすごろくゲームを取り入れて—

この実践は、これからの自分の生活をよりよくしていくために、地域の行政機関などと連携して授業を行ったものである。ここでは、男女共同参画社会への関心を高めるために、市の男女共同参画センターが公募する「男女共同参画川柳」を作成し、作品を生かしてすごろくゲームを行う授業を中心にまとめた。この授業は、募集時期に合わせ、全学年で年度のはじめに継続して行っている。1年生では、これを糸口に、さらに家庭と家族関係の学習を深めていく。

1. はじめに

1999年に成立した男女共同参画社会基本法の前文に「男女共同参画社会の実現は、緊要な課題である」とうたわれている。男女共同参画社会の実現は、自立して共に生きることをめざす、家庭分野の重要なねらいである。また、新学習指導要領のA(2)「家庭と家族関係」のイ「これからの自分と家族、家族関係をよくする方法」についての学習の柱でもあるといえる。

しかし、現代の中学生は男女共に勉強と部活の両立に追われ、性別役割分業などの問題を実感し、家族関係をよりよくする方法を具体的に考えることは難しい。

さて、本校のある愛知県豊田市は、男女共同参画センター（キラッ☆とよた）が、各種講座・セミナーなどの開催、情報誌の発行、FMとよた「10min ジェンダー講座」などを通して男女共同参画の理解を深め、活力ある社会づくりを進めている。その豊田市男女共同参画推進事業の一つに、男女共同参画川柳の募集がある。これは「身近な生活の中にあるジェンダーや男女共同参画について考える機会」として、毎年実施されている（「優秀作品集発行にあたって」より）。

そこで、自分の住む地域社会やそこで働く人とのつながりを感じ、よりよい生活や社会をつくる意欲を高めるために、男女共同参画センター発行のスクール版コミック冊子や優秀作品集を活用して川柳応募を行うことにした。

2. 指導計画

家庭と家族関係 1年生 (8時間完了)

「男女共同参画社会について考えよう」 (6時間)

1 男女共同参画社会について調べよう (2時間)

2 男女共同参画川柳をつくろう (2時間)

3 男女共同参画すごろくをしよう (2時間)

「家族の機能と家族関係について考えよう」(2時間)

2・3年生は「2 川柳をつくろう」のみ実施

3. 授業実践

(1) 男女共同参画社会について調べよう

各学年とも家庭分野についてのガイダンスのあとに行う。家庭分野のねらいである自立して生活し、共に生きることを、男女共同参画社会の実現をめざす切り口から考える。まず、過去の川柳作品集の中の、生徒や一般市民の優秀作品を読む。社会的につくられた性差を風刺したものや、性別にかかわらず共に生きる姿を展望したものなどから男女共同参画社会について関心をもつ。次に、男女共同参画社会基本法の文章から、めざす理念について知る。そして、教科書に掲載されている統計資料や、市の男女共同参画センターから、中学生向けに配布される男女共同参画について考える漫画冊子などを活用して、家庭や社会の中に見られる男女の差について考える。

(2) 男女共同参画川柳をつくろう

川柳作成にあたっては、過去の作品の優れた点を参考にして、自分の身近な問題を題材に作成する。

2010年度 生徒作品

豊田市教育委員会教育長賞

「母宇宙 地上で見送る 父娘」

入賞

「家庭科部 男子の手つき なれている」

「エプロンも スーツも似合う うちのパパ」

「町内会 進んでいく父 人気者」

「僕の母 シングルグルマザーで 奮闘中」

佳作

「父が言う 今日は魚が 安かった」 他



参画川柳優秀作品集

次に、市の男女共同参画川柳に全校生徒の作品を応募する。入賞作品は、男女共同参画センターから表彰されるほか、市民の方の作品とともに、優秀作品集に掲載される。教師以外の者に評価されたり、講評をもらったりすることは、生徒にとっても励みとなっている。

また、他の生徒や地域の方の作品から、多様な考えがあることを学び、社会や地域の人とのつながりを感じることができる。作品は掲示物にも活用する。



男女共同参画川柳全校作品の掲示

(3) 男女共同参画すごろくをしよう

川柳の内容には、参画社会が進んだ姿を表現したものと、進んでいない実態を風刺したものがある。そこで、川柳をすごろくの「進むマス」「止まるマス」に分類し、さらに新たに適切なマスを考えてすごろくゲームを行った。自分の身近な具体的な言動が参画社会の実現につながることを学ぶことができた。



男女共同参画すごろくゲーム

生徒の感想：

- ・マスの内容を読むと自分の家でも実際に参画社会が進むようなことや、止まってしまうことをやっていることがわかった。
- ・参画社会推進を止めるマスとして考えた「異性の悪口を言う」という言葉が印象に残りました。
- ・性別が違うからって差別していると、あまり社会が楽しくならないと思った。

4. 成果と課題

生徒たちは、川柳を通して多様な考えを学んだり、すごろくゲームをしながら対話したりすることができた。そして、他の生徒や地域に住む人たちが、男女共同参画の実現をめざして、自立し共に生きていく市民であることに気づくことができた。

これからは、川柳応募以外の多様な活動にもかわり方を広げていきたい。

参考文献・参考Webページなど

- ・「男女共同参画川柳優秀作品集 第1回～第8回」平成15年～平成22年6月
- ・「スクール版コミックでわかるジェンダー あなたらしく私らしく -男女共同参画社会をめざして-」平成22年3月 発行：キラッ☆とよた(男女共同参画センター) URL <http://www.hm4.aitai.ne.jp/~clover/>